

2018年度第2四半期決算 電話会議 資料

2018年11月19日（月）

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

全体目次

2018年度第2四半期決算の概要

グループ連結	P5-12
国内損害保険会社	P13-15
国内生命保険会社	P16-17
海外保険子会社	P18
（参考）国内損保会社主要2社の業績概要	P19-21
（参考）MS Amlin 業績概要	P23-24
（参考）ESRの状況	P25

2018年度業績予想

グループ連結	P27-32
今回業績予想の主な前提	P33
国内損害保険会社	P34-37
国内生命保険会社	P38-39
海外保険子会社	P41-42

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「データ編(Excelファイル)」もご参照ください。

2018年度第2四半期決算の概要

(空白)

グループ連結（2018年度第2四半期）①業績の概要 1（トップライン）

(億円)

損保子会社

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	2018年度	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)※	18,874	19,409	534	2.8%
正味収入保険料※	18,641	18,760	119	0.6%
三井住友海上	7,816	7,774	△ 42	△ 0.5%
あいおいニッセイ同和損保	6,301	6,238	△ 62	△ 1.0%
三井ダイレクト損保	186	182	△ 4	△ 2.3%
海外保険子会社	4,307	4,546	238	5.5%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(億円)

生保子会社

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	2018年度	
			前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)※	7,253	8,105	851	11.7%
三井住友海上あいおい生命	2,427	2,474	47	2.0%
三井住友海上プライマリー生命	4,826	5,630	804	16.7%
生命保険料	5,111	6,571	1,460	28.6%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2018年度第2四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は119億円、0.6%の増収。
- ・国内損保2社は減収(△105億円)となったが、自賠責保険の減収(△183億円)および再保険に係る復元追徴保険料(△161億円)を除くと240億円の増収。
- ・海外保険子会社は、MS First Capitalの新規連結(111億円)および為替影響などで238億円の増収。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:16ページを参照
- ・MSP生命:17ページを参照

グループ連結（2018年度第2四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

（億円）

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	2018年度	
			前年同期比	増減率
経常利益	1,315	753	△ 562	△ 42.7%
三井住友海上	1,313	793	△ 520	△ 39.6%
あいおいニッセイ同和損保	224	△ 274	△ 498	△ 222.3%
三井ダイレクト損保	12	9	△ 3	△ 24.9%
三井住友海上あいおい生命	88	78	△ 9	△ 11.3%
三井住友海上プライマリー生命	365	219	△ 145	△ 39.9%
海外保険子会社	△ 434	209	644	-
その他・連結調整等	△ 254	△ 282	△ 28	-
中間純利益 [※]	757	463	△ 294	△ 38.9%
三井住友海上	988	606	△ 381	△ 38.6%
あいおいニッセイ同和損保	137	△ 196	△ 334	△ 242.7%
三井ダイレクト損保	10	8	△ 2	△ 22.5%
三井住友海上あいおい生命	41	38	△ 3	△ 7.4%
三井住友海上プライマリー生命	177	120	△ 56	△ 32.2%
海外保険子会社	△ 381	155	536	-
その他・連結調整等	△ 216	△ 269	△ 53	-

※ 連結の中間純利益は親会社株主に帰属する中間純利益を記載。子会社の中間純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結(2018年度第2四半期)①業績の概要 2(ボトムライン)

<中間純利益>

(グループ連結)

- ・国内自然災害を主因に△294億円の減益。年間純利益年初予想2,000億円に対する進捗率は、23.2%にとどまった。

(国内損保子会社)

- ・アード保険料および政策株式売却益が増加した一方、自然災害の影響が大きく、2社合計で△715億円の減益
- ・自然災害を年初計画並みとすると、保険引受利益は概ね計画どおりの進捗。

(国内生保子会社)

- ・計画比プラス進捗ながら、MSP生命が契約初年度の責任準備金や手数料の負担増加などから△56億円減益となったことを主因に、前年同期比△60億円減益。

(海外子会社)

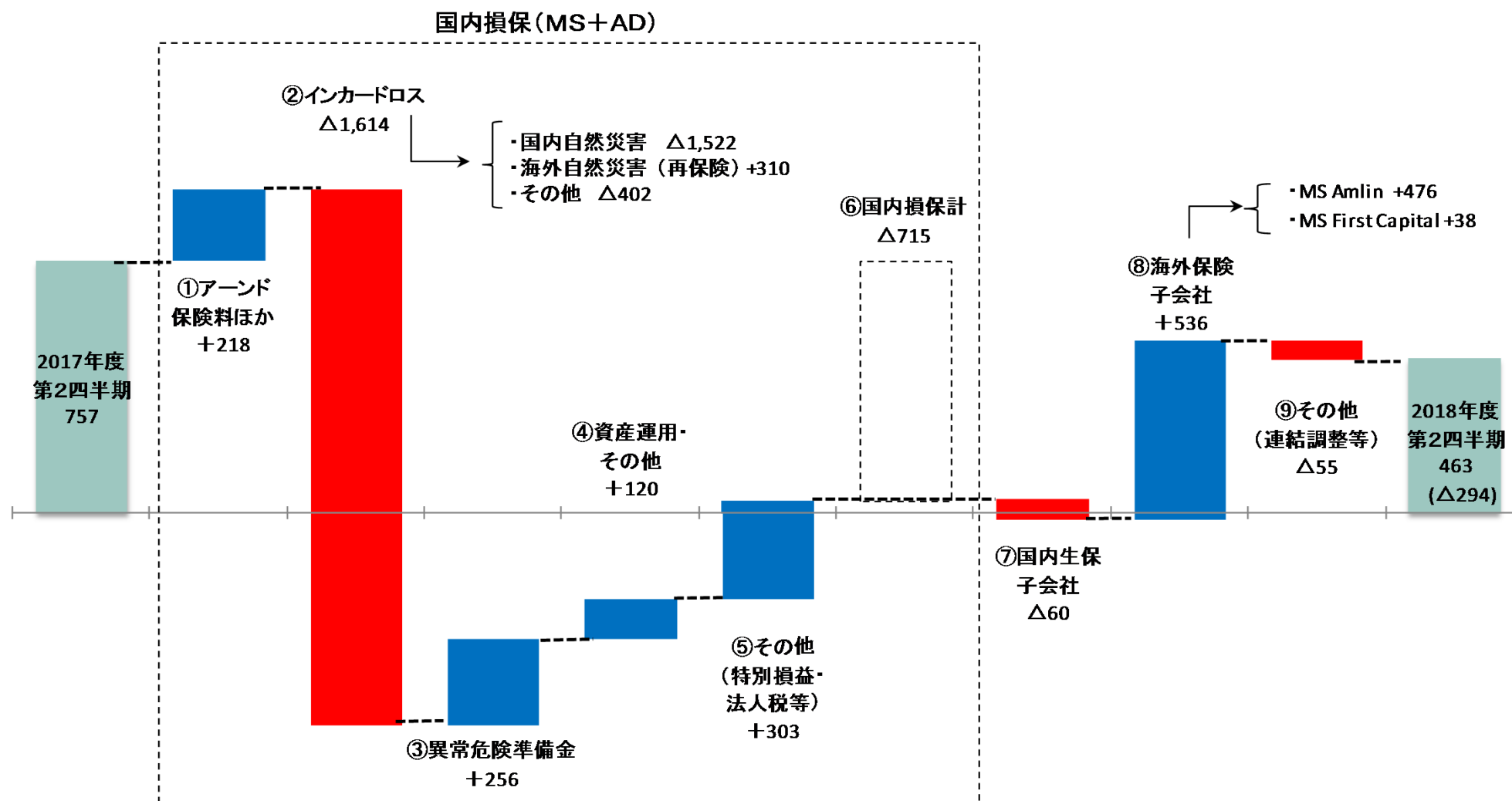
- ・海外子会社は、536億円の増益。MS Amlinの回復やアジアの増益が主因。

グループ連結（2018年度第2四半期）②前年同期との比較 1

- 国内損保2社で、国内自然災害が前年同期比で1,522億円増加したことを主因に②のインカードロスが1,614億円増加。④の資産運用・その他は有価証券売却損益の増加を主因に120億円増加。
- ⑧の海外保険子会社は、北米ハリケーン等の海外自然災害の影響を受けた前期から回復し、536億円の増益。

中間純利益

(億円)



グループ連結（2018年度第2四半期）②前年同期との比較 2

中間純利益の内訳

(億円)

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	差額
中間純利益	757	463	△ 294
国内損保 ^{※1} 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	472	△ 667	△ 1,139
アーンド保険料ほか ^{※2} ①	7,883	8,102	218
インカードロス(含む損害調査費) ②	△ 6,907	△ 8,521	△ 1,614
異常危険準備金積増 ③	△ 504	△ 248	256
資産運用・その他 ④	1,066	1,186	120
その他(特別損益・法人税等) ⑤	△ 412	△ 108	303
国内損保計 ⑥	1,126	410	△ 715
国内生保子会社 ⑦	218	158	△ 60
海外保険子会社 ⑧	△ 381	155	536
その他(連結調整等) ⑨	△ 205	△ 261	△ 55

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「アーンド保険料ほか」には、事業費などが含まれる

グループ連結（2018年度第2四半期）③グループ修正利益

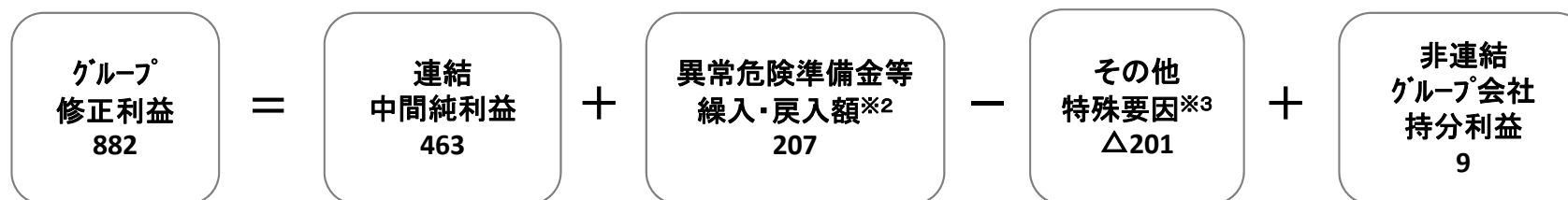
・グループ修正利益は、自然災害の影響を大きく受けた国内損保事業の減益を主因に△420億円減益の882億円。

(億円)

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	前年同期比
グループ修正利益 ※1	1,302	882	△ 420
国内損保事業	1,687	480	△ 1,206
国内生保事業	204	163	△ 41
海外事業	△ 611	211	823
金融サービス事業/リスク関連事業	22	26	4

※1 「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。

(参考)



※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△172、特別損益(除く価格変動準備金)△28

グループ連結（2018年度第2四半期）④当年度発生自然災害ロス（国内・海外）

- ・国内自然災害は前年同期比1,522億円増加の1,770億円。
- ・海外自然災害は前年同期比△872億円減少の8億円。

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス		
	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	前年同期比
三井住友海上	154	860	706
あいおいニッセイ同和損保	94	910	815
合 計	248	1,770	1,522

※通期の見通しは29ページに記載

※ 大阪府北部を震源とする地震および平成30年北海道胆振東部地震は上記2社計で29億円
(除く家計地震ベース、三井住友海上:19億円、あいおいニッセイ同和損保:10億円)

海外自然災害の影響※

(億円)

	インカードロス		
	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	前年同期比
あいおいニッセイ同和損保	309	8	△ 300
MS Amlin	572	-	△ 572
合 計	881	8	△ 872

※ 上記2社の海外自然災害

国内損害保険会社（2018年度第2四半期）①主要2社の業績概要 1

・アード保険料は、「その他」や火災保険の増収を主因に217億円の増収。一方、インカードロスは、自然災害の影響により大きく増加。

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
正味収入保険料 ^{※1}	14,012	△ 105	7,774	△ 42	6,238	△ 62
アード保険料 ^{※2}	12,098	217	6,800	146	5,298	71
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-)	1,614	4,607	877	3,914	736
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	67	2,214	55	1,862	11
諸手数料及び集金費 ^{※2}	2,484	27	1,318	29	1,165	△ 1
営業費及び一般管理費 ^{※2}	1,592	39	896	25	696	13
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 419	△ 1,395	△ 9	△ 771	△ 409	△ 624
異常危険準備金損益	△ 248	256	△ 153	120	△ 94	135
保険引受利益	△ 667	△ 1,139	△ 163	△ 650	△ 504	△ 488
EI損害率 ^{※2}	70.4%	12.3pt	67.8%	11.7pt	73.9%	13.1pt
正味損害率 ^{※1}	59.7%	5.9pt	59.5%	5.1pt	60.0%	6.8pt
正味事業费率 ^{※1}	31.7%	0.7pt	30.7%	0.9pt	32.9%	0.4pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	91.4%	6.6pt	90.2%	6.0pt	92.9%	7.2pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠償ベース

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2018年度第2四半期）①主要2社の業績概要 2

- ・ 有価証券売却損益が前年同期比134億円増加したことから、資産運用・その他収支は120億円の増益。
- ・ 中間純利益は、資産運用損益が増益となったものの、保険引受利益が大幅な減益となったことから△715億円の減益。

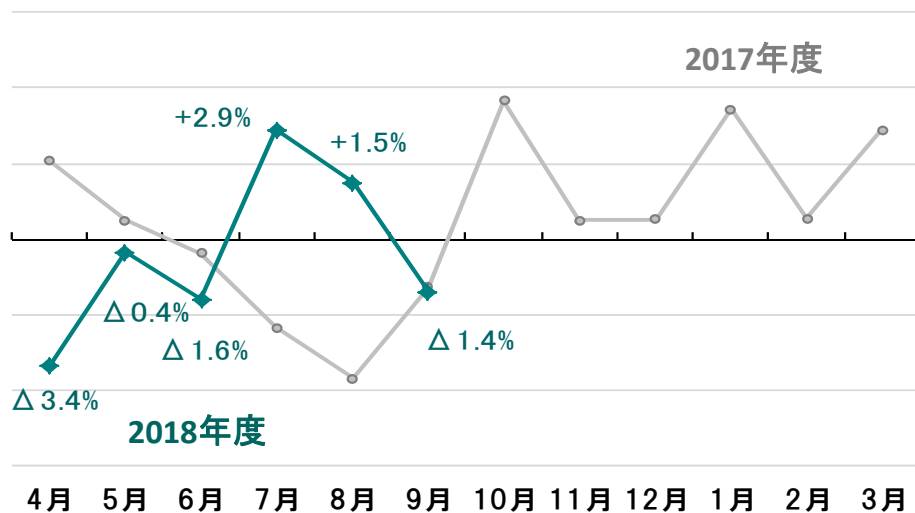
(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
保険引受利益	△ 667	△ 1,139	△ 163	△ 650	△ 504	△ 488
ネット利息及び配当金収入	622	19	417	21	204	△ 2
有価証券売却損益	651	134	582	132	69	2
有価証券評価損 (－)	23	11	19	9	3	1
資産運用・その他収支	1,186	120	956	130	229	△ 10
経常利益	518	△ 1,019	793	△ 520	△ 274	△ 498
特別損益	△ 46	30	△ 19	1	△ 26	28
税引前中間純利益	472	△ 988	773	△ 518	△ 300	△ 470
法人税等	62	△ 273	166	△ 136	△ 104	△ 136
中間純利益	410	△ 715	606	△ 381	△ 196	△ 334
	2社合計					
		前年同期比				
(参考)政策株式売却額	726	△ 79				

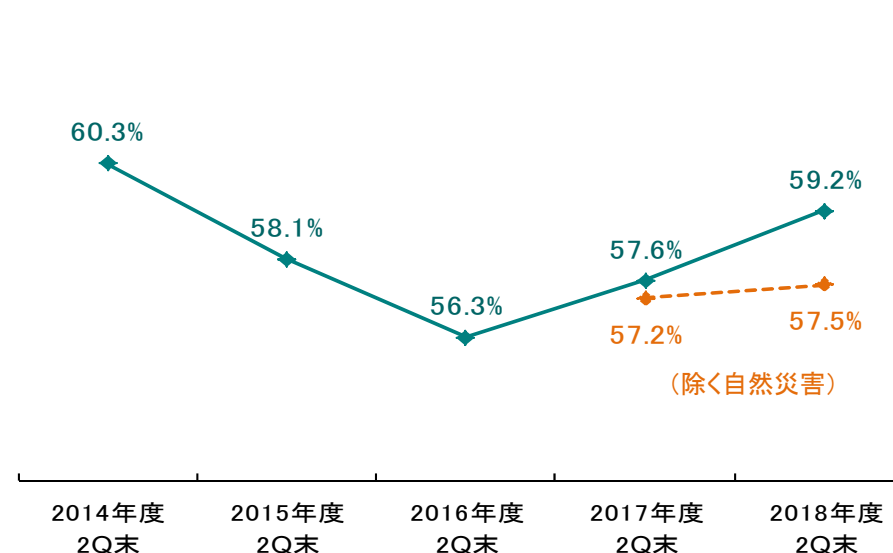
国内損害保険会社（2018年度第2四半期）②自動車保険の状況

- ・ 自然災害影響を主因にEI損害率は1.6pt上昇の59.2%。自然災害影響を除くベースのEI損害率は0.3pt上昇の57.5%にとどまっている。
- ・ 事故件数は、9月末累計で前年同期比0.4%の増加。

事故件数の推移（国内, 1日あたり, 対前年同月。除く自然災害）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.7%	Δ 2.0%	Δ 1.3%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	±0.0%	+0.1%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.1%	Δ 1.0%	Δ 0.8%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+1.0%	+1.7%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-9月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2018年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2018年9月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-9月

国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2018年度第2四半期）業績概要

- ・新契約高は収入保障保険の販売が好調だったことを主因に26.4%増加、新契約年換算保険料（第三分野）も新商品の販売が好調だったことなどから26.2%の増加。
- ・中間純利益は、有価証券売却損益の減少などにより△3億円減益の38億円。

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2017年度 第2四半期		2018年度 第2四半期		増減率
			前年同期比		
新契約高（個人合計）	14,144	17,872	3,728	26.4%	
新契約年換算保険料	199	258	59	29.7%	
うち 第三分野	68	86	17	26.2%	
保有契約高（個人合計）	(期首) 238,068	243,623	(期首比) 5,554	2.3%	
保有契約年換算保険料	(期首) 4,123	4,220	(期首比) 96	2.3%	
うち 第三分野	(期首) 967	1,020	(期首比) 53	5.6%	
保険料(グロス収入保険料)	2,427	2,474	47	2.0%	
経常利益	88	78	△ 9	△ 11.3%	
特別損益	△ 4	△ 6	△ 2	—	
中間純利益	41	38	△ 3	△ 7.4%	
基礎利益	78	87	8	11.1%	
EEV	(期首) 8,355	8,809	(期首比) 453		

※ 第2四半期のEEVは、一部簡易な計算による試算値。また、第三者機関の検証は受けておりません。

国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2018年度第2四半期）業績概要

- ・ グロス収入保険料は、外貨建年金の販売好調を主因に定額商品が増収、変額商品も増収となったことから合計で804億円の増収。
- ・ 中間純利益は、契約初年度の責任準備金や手数料の負担増加などから△56億円減益の120億円。なお、利ざや収入の増加などにより計画対比ではプラス。

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2017年度 第2四半期		2018年度 第2四半期		増減率
			前年同期比		
新契約高（個人合計）	4,831	5,732	900	18.6%	
保有契約高（個人合計）	(期首) 60,618	65,282	(期首比) 4,663	7.7%	
保険料(グロス収入保険料)	4,826	5,630	804	16.7%	
経常利益	365	219	△ 145	△ 39.9%	
特別損益	△ 119	△ 54	64	—	
中間純利益	177	120	△ 56	△ 32.2%	

金利・為替影響

(億円)

金利影響	48	5
為替影響	57	32
合計	105	38

海外保険子会社（2018年度第2四半期）業績概要

- ・ 正味収入保険料は238億円、5.5%の増収。為替影響を除いたベースでは86億円、2.0%の増収。MS Amlinが為替影響により123億円、4.1%の増収となったこと(為替影響を除いたベースでは△13億円、△0.5%)、およびMS First Capital の新規連結が主因。
- ・ 中間純利益は536億円の増益。MS Amlinの自然災害のロスの減少による欧州の増益、MS First Capitalの新規連結およびシンガポール、中国、オーストラリアの損害率低下によるアジアの増益が寄与。

海外保険子会社

(億円)

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	2018年度	
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	4,307	4,546	238	5.5%
アジア	813	939	126	15.6%
欧州	3,235	3,362	127	3.9%
(うちMS Amlin)	2,985	3,108	123	4.1%
米州	259	244	△ 15	△ 5.9%
中間純利益	△ 381	155	536	-
アジア	63	111	47	74.1%
欧州	△ 477	△ 8	469	-
(うちMS Amlin)	△ 465	10	476	-
米州	7	15	8	117.1%
海外生保 [※]	25	37	12	47.8%

※ 2018年度より海外生保を区分表示

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第2四半期) 主要2社の業績概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	1,926	△1.8%	1,019	△3.2%	907	△0.2%
海上	366	3.0%	321	3.8%	44	△2.2%
傷害	1,128	2.6%	794	2.4%	333	3.3%
自動車	6,777	△0.6%	3,314	△0.9%	3,462	△0.2%
自賠責	1,680	△9.8%	885	△9.6%	795	△10.1%
その他	2,134	5.6%	1,439	6.3%	695	4.0%
合計	14,012	△0.7%	7,774	△0.5%	6,238	△1.0%
除く家計地震・自賠責	12,328	0.6%	6,886	0.8%	5,442	0.5%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第2四半期) 主要2社の業績概要 2

EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2017年度	2018年度	前年同期比	2017年度	2018年度	前年同期比
	第2四半期	第2四半期		第2四半期	第2四半期	
火災 (除く家計地震)	69.6%	131.1%	61.5pt	43.2%	54.9%	11.7pt
海上	66.8%	56.2%	△10.6pt	66.6%	51.4%	△15.2pt
傷害	52.6%	51.4%	△1.2pt	52.6%	51.4%	△1.2pt
自動車	57.6%	59.2%	1.6pt	57.2%	57.5%	0.3pt
その他	48.9%	57.7%	8.8pt	48.2%	53.4%	5.2pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	58.1%	70.4%	12.3pt	53.4%	55.7%	2.3pt

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第2四半期) 主要2社の業績概要 3

EI損害率 (三井住友海上 (単体)、あいおいニッセイ同和損保 (単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
火災 (除く家計地震)	118.6%	60.6pt	147.1%	62.9pt	55.6%	10.3pt	54.0%	13.5pt
海上	54.7%	△11.3pt	69.1%	△5.1pt	49.3%	△16.5pt	69.1%	△5.1pt
傷害	51.4%	△2.2pt	51.5%	1.2pt	51.3%	△2.3pt	51.5%	1.2pt
自動車	58.7%	0.9pt	59.7%	2.3pt	57.2%	△0.2pt	57.8%	0.8pt
その他	57.7%	9.4pt	57.8%	7.6pt	52.7%	5.1pt	55.0%	5.7pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	67.8%	11.7pt	73.9%	13.1pt	55.1%	1.5pt	56.5%	3.4pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額

(空白)

(ご参考) MS Amlin 2018年度第2四半期(2018年1-6月期)業績概要※1

(百万ポンド)

	2017年度※2 第2四半期	2018年度 第2四半期	前年同期比
正味収入保険料	2,097	2,088	△10
アード保険料	1,401	1,495	93
インカードロス(含む損害調査費)	1,350	957	△393
手数料・社費	532	539	7
保険引受利益	△492	25	517
資産運用損益※3	146	57	△89
その他損益※4	△38	△81	△43
中間純利益	△324	7	331
EI 損害率	96.4%	64.0%	△32.4pt
EI 事業費率※5	38.7%	34.3%	△4.4pt
EI コンバインド・レシオ※5	135.1%	98.3%	△36.8pt

※1 現地管理ベース(前年同期数値についても組替)

※2 2017年8月から9月にかけて損害が発生した北米ハリケーン(ハービー・イルマ・マリア)およびメキシコ地震にかかるインカードロス(398百万ポンド)を追込み計上

※3 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※4 保険事業会社以外で生じる経費等。なお、2018年度第2四半期には人員削減に伴う退職一時金等が含まれる。

※5 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を入れて算出

(ご参考) MS Amlin 2018年度第2四半期(2018年1-6月期)業績概要

(中間純利益)

- ・中間純利益は7百万ポンドと、前年同期比+331百万ポンドの大幅な改善となった。
- ・前期には北米ハリケーン等の損害を計上したが、当期は自然災害による大口ロスがなかったことや、前期に比べ一般ロスの損害率が改善したことが主因。
- ・利益の進捗は遅れているが、資産運用損益が想定を下回ったことが主因。

(保険引受利益)

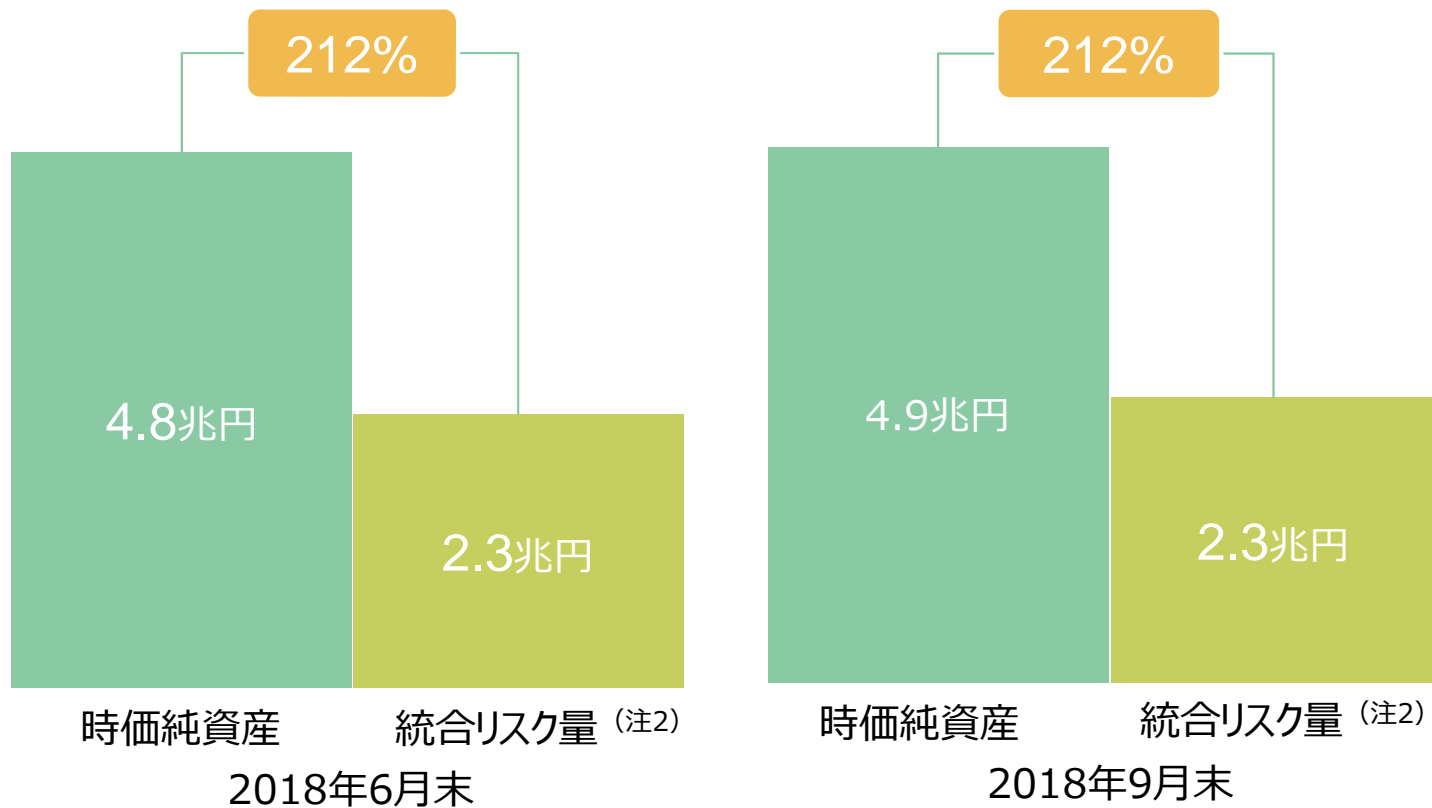
- ・当年度の自然災害のロスの減少に加え、一般保険リスクの損害率改善(△3.3pt)を含め、前年同期比大幅に改善した(+517百万ポンド)。

(資産運用損益)

- ・米国株式が好調に推移した前期に比べ、株式の収益が減少したこと等により、前年同期比△89百万ポンドの減益。

(ご参考) ESRの状況

ESR^(注1)



<ESRの主な増減要因> (2018年6月末対比)

ESRは、主に以下のような要因により、同水準を維持。

- ↘ 自然災害の発生による時価純資産の減少
- ↗ 国内株価上昇と国内金利上昇による時価純資産の増加
- ↗ 政策株式の売却による株式リスクの減少

<市場環境前提>

	2018年 6月末	2018年 9月末	対6月末
日経平均株価 為替 (ドル円)	22,305円	24,120円	+1,816円
国債30年金利	0.71%	0.91%	+0.20pt

(注1) ESR : エコミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

2018年度業績予想

グループ連結（2018年度業績予想）①概要1（トップライン）

- ・ 損保子会社の正味収入保険料は、MS Amlinの引受抑制を主因に年初予想比△100億円の引下げ。
- ・ 生保子会社のグロス収入保険料は、上期のMSA生命の販売好調を反映し、77億円の引上げ。

損保子会社

(億円)

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
正味収入保険料※	34,469	34,800	34,700	230	0.7%	△ 100
三井住友海上	15,003	15,010	15,010	6	0.0%	-
あいおいニッセイ同和損保	12,220	12,250	12,260	39	0.3%	10
三井ダイレクト損保	378	380	375	△ 3	△ 1.0%	△ 5
海外保険子会社	6,823	7,160	7,000	176	2.6%	△ 160

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

(億円)

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
保険料(グロス収入保険料)※	15,081	14,968	15,045	△ 36	△ 0.2%	77
三井住友海上あいおい生命	4,925	4,968	5,045	119	2.4%	77
三井住友海上プライマリー生命	10,156	10,000	10,000	△ 156	△ 1.5%	-
生命保険料	10,582	11,700	11,800	1,217	11.5%	100

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結（2018年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

- ・経常利益は2,900億円（年初予想比△50億円）。
- ・当期純利益は年初予想どおりの2,000億円。

(億円)

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
経常利益	2,115	2,950	2,900	784	△ 50
三井住友海上	2,625	1,880	1,930	△ 695	50
あいおいニッセイ同和損保	56	670	650	593	△ 20
当期純利益※	1,540	2,000	2,000	459	-
三井住友海上	1,982	1,410	1,440	△ 542	30
あいおいニッセイ同和損保	156	360	350	193	△ 10
三井ダイレクト損保	2	2	1	△ 2	△ 1
三井住友海上あいおい生命	52	50	40	△ 12	△ 10
三井住友海上プライマリー生命	292	170	200	△ 92	30
海外保険子会社	△ 1,046	400	380	1,426	△ 20
その他・連結調整等	100	△ 392	△ 411	△ 511	△ 19
ROE(財務会計ベース)	5.5%	6.8%	6.6%	1.1pt	△ 0.2pt

※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結（2018年度業績予想）②当年度発生自然災害ロス（国内・海外）

<国内>

	正味インカードロス						年初 予想差
	上期			年間合計(今回予想)			
	MS	AD	合計	MS	AD	合計*	
国内自然災害計	860	910	1,770	1,150	1,010	2,160	1,650

※上期実績と台風24号の下期インカードロスの合計額は2,010億円

<異常危険準備金(火災)グロス取崩額>

	上期			年間合計(今回予想)			年初 予想差
	MS	AD	合計	MS	AD	合計	
取崩額	111	99	211	850	899	1,749	1,578

※期末に追加繰入(MS:350億円、AD:100億円)を予定

<海外>

	正味インカードロス		年初 予想差
	上期	年間合計 (今回予想)	
合計	8	286	△ 122
MS Amlin	-	176	△ 72
AD	8	110	△ 50

<参考:主な国内自然災害の保険金支払見込額> (万件、億円)

	最終支払 見込件数	最終支払 見込額(概算)
7月豪雨(台風7号を含む)	約 2	750
台風21号	約 25	2,900
台風24号	約 12	980
元受支払見込額 上記計	約 39	4,630
再保険回収見込額		△ 2,790
正味インカードロス		1,840

※ 現時点における見込み

グループ連結(2018年度業績予想)②当年度発生自然災害ロス(国内・海外)

(国内自然災害)

- ・7月豪雨(台風7号を含む)・台風21号・24号合計のグロス保険金見込額は4,630億円。ただし、再保険回収を2,790億円見込むことから、正味インカードロスは1,840億円。(再保険回収割合:約60%)
- ・以下グラフのとおり、一定の保有を取りながら、巨大災害に対して正味インカードロスを抑えるよう再保険を有効に機能させてきている。
- ・多発した国内自然災害の損害を織り込み、正味インカードロスを2,160億円(年初予想比+1,650億円)に引上げ。
- ・異常危険準備金

グロス取崩額は年初予想比1,578億円増加。

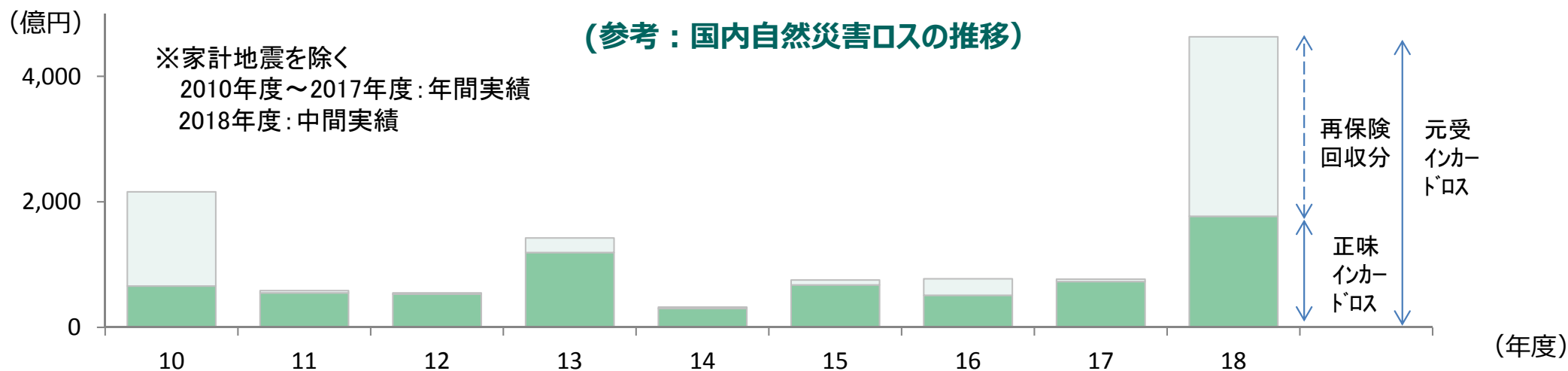
今回の業績予想には期末にMSで350億円、ADで100億円の追加繰入を織り込む。

期末の異常危険準備金(火災)の残高は、1,612億円(MS:892億円、AD:720億円)を見込む。

なお、追加繰入額は期末の発生ロスの状況等を勘案して決定する。

(海外自然災害)

- ・正味インカードロスは、年初予想から122億円減少の286億円。

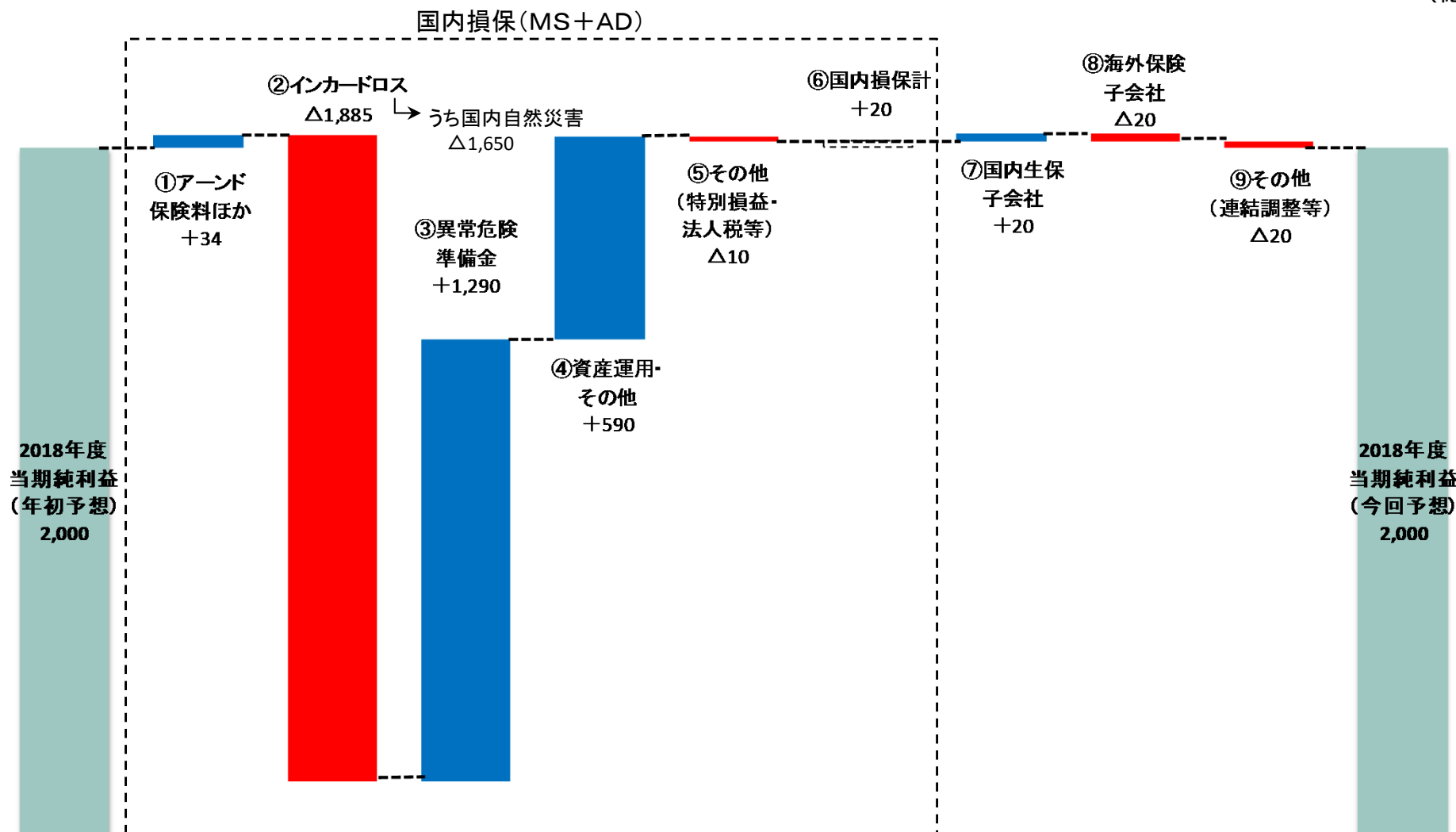


グループ連結（2018年度業績予想）③年初予想との比較

・上期発生其自然災害等の保険金支払いが進むことを主因に③の異常危険準備金で+1,290億円、政策株式売却加速により④の資産運用・その他で+590億円を見込むことなどから、通期の純利益は年初予想どおり。

連結純利益の年初予想比増減要因

(億円)



グループ連結（2018年度業績予想）④グループ修正利益

・年初予想比で、グループ修正利益は国内生保事業と金融サービス事業／リスク関連事業で増益となるものの、国内損保事業の大幅な減益※を主因に△900億円減益の1,800億円。

※グループ修正利益ベースでは異常危険準備金損益を控除するため、会計利益とギャップが生じる。

(億円)

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度(今回予想)		
				前期比	年初予想比
グループ修正利益	2,010	2,700	1,800	△ 210	△ 900
国内損保事業	2,878	2,070	1,160	△ 1,718	△ 910
国内生保事業	326	220	240	△ 86	20
海外事業	△ 1,250	370	350	1,600	△ 20
金融サービス事業/リスク関連事業	56	40	50	△ 6	10
その他経営数値目標					
MSA生命 EEV	8,355	8,650	9,030	675	380
グループ修正ROE	6.4%	8.5%	5.6%	△ 0.8pt	△ 2.9pt

今回業績予想の主な前提

		三井住友海上		あいおいニッセイ同和損保	
市場環境の前提		2018年9月末の水準を想定			
		参考(2018年9月末) 日経平均 24,120円、米ドル 114円、ユーロ 132円、英ポンド 149円			
国内自然災害		1,150億円	(+ 840億円)	1,010億円	(+ 810億円)
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	448億円	(+ 348億円)	245億円	(+ 101億円)
	取崩	850億円	(+ 776億円)	899億円	(+ 802億円)
	積増	△ 402億円	(△ 427億円)	△ 654億円	(△ 701億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	210億円	(△ 0億円)	220億円	(△ 1億円)
	取崩	142億円	(+ 19億円)	296億円	(+ 27億円)
	積増	67億円	(△ 20億円)	△ 76億円	(△ 28億円)
法定実効税率		27.9%			

※ 海外自然災害について、MS Amlinは176億円(自然災害を含む大口ロス)。あいおいニッセイ同和損保は110億円。

※ 異常危険準備金(火災保険)について、三井住友海上は350億円、あいおいニッセイ同和損保は100億円の追加繰入を織込。

※ あいおいニッセイ同和損保で、価格変動準備金の追加繰入150億円を織込。

※ ()内は年初予想比

国内損害保険会社（2018年度業績予想）主要2社の概要 1

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
正味収入保険料 ^{※1}	27,270	46	10	15,010	6	-	12,260	39	10
アーンド保険料 ^{※2}	23,809	193	△ 72	13,193	64	△ 50	10,616	128	△ 22
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2} (－)	15,979	1,785	1,885	8,781	1,028	1,048	7,198	757	837
保険引受に係る事業費 ^{※2} (－)	8,344	295	△ 2	4,473	104	14	3,871	190	△ 16
諸手数料及び集金費 ^{※2}	4,853	75	20	2,557	42	16	2,296	32	4
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,491	219	△ 22	1,916	61	△ 2	1,575	157	△ 20
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	△ 392	△ 1,731	△ 1,850	0	△ 1,003	△ 1,068	△ 392	△ 728	△ 782
異常危険準備金損益	912	1,358	1,290	240	398	538	672	959	752
保険引受利益	520	△ 373	△ 560	240	△ 604	△ 530	280	231	△ 30
EI損害率 ^{※2}	67.1%	7.0pt	8.1pt	66.6%	7.5pt	8.2pt	67.8%	6.4pt	8.0pt
正味損害率 ^{※1}	67.8%	7.3pt	6.1pt	67.3%	5.7pt	6.1pt	68.5%	9.3pt	6.1pt
正味事業费率 ^{※1}	33.3%	1.1pt	0.0pt	32.0%	0.7pt	0.0pt	34.8%	1.4pt	△ 0.1pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	101.1%	8.4pt	6.1pt	99.3%	6.4pt	6.1pt	103.3%	10.7pt	6.0pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2018年度業績予想）主要2社の概要 2

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
保険引受利益	520	△ 373	△ 560	240	△ 604	△ 530	280	231	△ 30
ネット利息及び配当金収入	1,150	15	70	780	63	60	370	△ 47	10
有価証券売却損益	1,172	△ 171	509	1,052	△ 136	493	120	△ 35	16
有価証券評価損 (一)	68	△ 432	3	38	27	3	30	△ 460	-
資産運用・その他収支	2,060	271	590	1,690	△ 90	580	370	362	10
経常利益	2,580	△ 101	30	1,930	△ 695	50	650	593	△ 20
特別損益	△ 224	△ 551	5	△ 37	△ 53	△ 6	△ 187	△ 498	11
当期純利益	1,790	△ 348	20	1,440	△ 542	30	350	193	△ 10

国内損害保険会社（2018年度業績予想）主要2社の概要 3

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	3,705	Δ0.2%	1,946	Δ1.1%	1,759	0.8%
海上	688	1.3%	606	0.3%	82	9.5%
傷害	2,135	2.2%	1,498	1.4%	637	3.9%
自動車	13,397	Δ0.3%	6,539	Δ0.8%	6,858	0.3%
自賠責	3,348	Δ4.8%	1,764	Δ4.4%	1,584	Δ5.2%
その他	3,997	5.3%	2,657	5.5%	1,340	5.0%
合計	27,270	0.2%	15,010	0.0%	12,260	0.3%
除く家計地震・自賠責	23,912	0.9%	13,240	0.7%	10,672	1.2%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

国内損害保険会社（2018年度業績予想）主要2社の概要 4

EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	106.5%	29.8pt	108.8%	37.0pt	104.0%	21.7pt
海上	58.9%	△1.2pt	58.8%	△0.3pt	60.3%	△8.6pt
傷害	52.7%	0.1pt	53.5%	0.6pt	50.7%	△1.3pt
自動車	61.8%	2.5pt	61.3%	2.0pt	62.3%	3.0pt
その他	56.3%	6.2pt	56.6%	5.3pt	55.8%	8.0pt
合計(除く家計地震・自賠責)	67.1%	7.0pt	66.6%	7.5pt	67.8%	6.4pt
(除く自然災害影響)	57.6%	2.5pt	57.8%	2.1pt	57.3%	3.0pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額

三井住友海上あいおい生命（2018年度業績予想）

主要項目

（億円）

	2017年度	2018年度 （年初予想）	2018年度（今回予想）		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高 [※]	26,395	22,500	32,969	24.9%	10,469
新契約年換算保険料 [※]	388	459	542	39.5%	83
保有契約高 [※]	238,068	238,800	248,135	4.2%	9,335
保有契約年換算保険料 [※]	4,123	4,287	4,355	5.6%	68
保険料（グロス収入保険料）	4,925	4,968	5,045	119	77
経常利益	169	160	142	△27	△18
当期純利益	52	50	40	△12	△10

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

主要項目

(億円)

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度 (今回予想)		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高	10,156	10,136	10,311	1.5%	175
保有契約高	60,618	65,700	67,420	11.2%	1,720
保険料(グロス収入保険料)	10,156	10,000	10,000	△ 155	0
経常利益	289	274	353	64	79
当期純利益	292	170	200	△ 92	30

(空白)

海外保険子会社（2018年度業績予想）

海外保険子会社

（億円）

	2017年度	2018年度 (年初予想)	2018年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
正味収入保険料	6,823	7,160	7,000	176	△ 160
アジア	1,625	1,757	1,788	162	31
欧州	4,704	4,919	4,746	40	△ 173
(うちMS Amlin)	4,296	4,498	4,347	50	△ 151
米州	493	484	467	△ 26	△ 18
当期純利益	△ 1,046	400	380	1,426	△ 20
アジア	107	173	237	129	63
欧州	△ 1,247	119	48	1,295	△ 71
(うちMS Amlin)	△ 1,104	185	105	1,209	△ 79
米州	35	30	32	△ 3	2
海外生保	58	78	63	5	△ 14

海外保険子会社(2018年度業績予想)

(トップライン)

- ・正味収入保険料は、MS Amlin の引下げ($\Delta 151$ 億円(94百万ポンド))を主因に $\Delta 160$ 億円引下げの7, 000 億円。MS Amlinの引き下げの主因は、同社による慎重な引受方針。

(ボトムライン)

- ・純利益は、年初予想比 $\Delta 20$ 億円の引下げとなる380 億円。
- ・MS Amlinは年初予想比で $\Delta 79$ 億円(53百万ポンド)の105 億円(71百万ポンド)となるが、前期から大幅に改善する。また、中国やシンガポールでの自動車保険・火災保険の損害率改善、セリンコの新規持分法適用、アジアでの不動産売却益などがプラスに寄与。

(MS Amlin)

- ・資産運用損益の見通しを引下げたことに加え、一般保険リスクの改善のスピードが想定より遅れているため年初予想を下回る見通しだが、前年比では着実に収益改善している。
- ・一般保険リスクの改善の遅れは、依然厳しい市場環境が継続していることに加え、ロイズの監督強化等を踏まえより保守的な損害率を設定したことが要因。利益回復は計画より遅れるが、過年度引受分を含めポートフォリオは改善。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝MS Amlin plc)
- ・ MS First Capital (＝MS First Capital Insurance Limited)
- ・ セリンコ (＝Ceylinco Insurance PLC)

「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等） + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS & ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/contact/index.html>